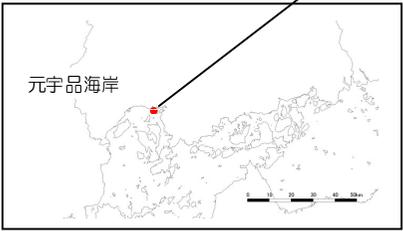


1. 広島市南区元宇品海岸の調査速報（調査日：平成21年6月6日（土））

1.1 調査の概要

■ 調査の場所



元宇品海岸



元宇品海岸

■ 調査の時間

平成21年6月6日（大潮）の干潮時（14:00～16:00）に実施した。
当日の干潮は、潮位が37.9cm（14時47分）（潮汐表：広島）。

■ 参加メンバー

広島工業大学 環境学部 地域環境学科生（4名）
広島県内の学校教師（1名）、広島市西区在住の方（2名）
広島県（2名）、調査委託会社・日本ミクニヤ株式会社（5名）

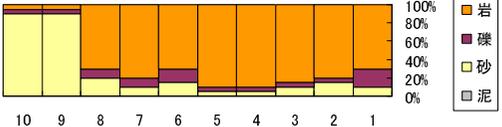


調査前のミーティング

1.2 調査結果について

■ 沿岸域環境モニタリング方法

基質

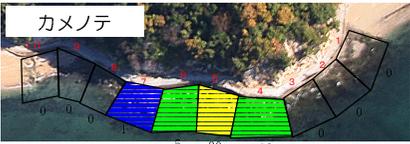


凡例

- 見られない: 「r」海岸線20mあたり0個体
- 非常に少ない: 「rr」海岸線20mあたり1個体
- 少ない: 「r」海岸線20mあたり2個体以上20個体以下
- ふつつ: 「r+」海岸線20mあたり21個体以上200個体以下、または被覆度6%以上30%以下
- 多い: 「r++」海岸線20mあたり201個体以上2000個体以下、または被覆度31%以上50%以下
- 非常に多い: 「r+++」海岸線20mあたり2001個体以上、または被覆度51%以上

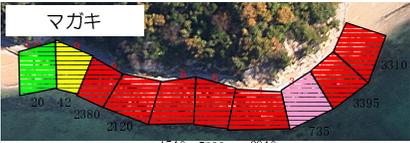
※色枠下の数値は、確認された個体数もしくは被覆度を示す。

カメノテ



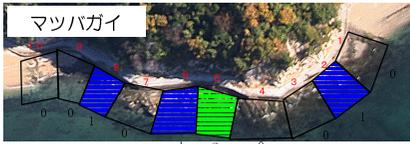
きれいな海域で見られるカメノテは鼻になった区域で非常に少ない～ふつつ量確認された。

マガキ



比較的良好な海域で見られるマガキは付着基質が少ない区域では非常に少ないが、その他では非常に多く確認された。

マツバガイ



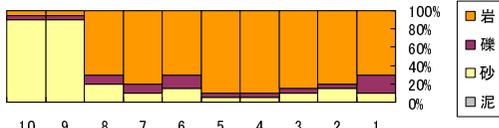
きれいな海域で見られるマツバガイは区域2,5,6,8で非常に少ない～少ないで確認された。

ケガキ



きれいな海域で見られるケガキは、確認されなかった。

基質

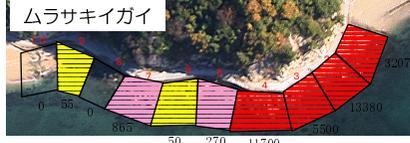


凡例

- 見られない: 「r」海岸線20mあたり0個体
- 非常に少ない: 「rr」海岸線20mあたり1個体
- 少ない: 「r」海岸線20mあたり2個体以上20個体以下
- ふつつ: 「r+」海岸線20mあたり21個体以上200個体以下、または被覆度6%以上30%以下
- 多い: 「r++」海岸線20mあたり201個体以上2000個体以下、または被覆度31%以上50%以下
- 非常に多い: 「r+++」海岸線20mあたり2001個体以上、または被覆度51%以上

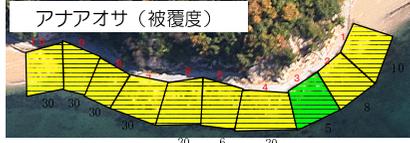
※色枠下の数値は、確認された個体数もしくは被覆度を示す。

ムラサキガイ



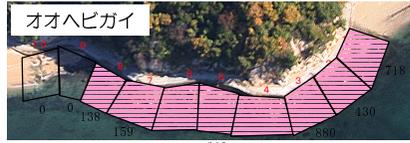
比較的良好な海域で見られるムラサキガイは、生息帯に付着基質がない区域8,10では見られないが、それ以外ではふつつ量～非常に多い、で確認された。

アアナオサ（被覆度）



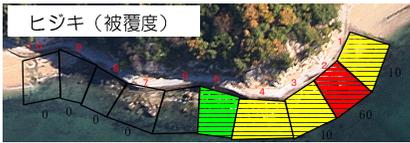
比較的良好な海域で見られるアアナオサは少ない～ふつつ、で確認された。

オオヘビガイ



比較的良好な海域で見られるオオヘビガイは付着基質がない区域9,10以外では多い、で確認された。

ヒジキ（被覆度）



比較的良好な海域で見られるヒジキは生育帯に付着基質が少なかった区域6～10以外では少ない～非常に多い、で確認された。

●きれいな海域で見られるオオヘビガイ、カメノテ、マツバガイが見られたが、よりきれいな海域で見られるケガキはまだ確認されなかった。

●比較的良好な海域で見られるムラサキガイ、マガキが多く確認された。

■ コドラート定点調査



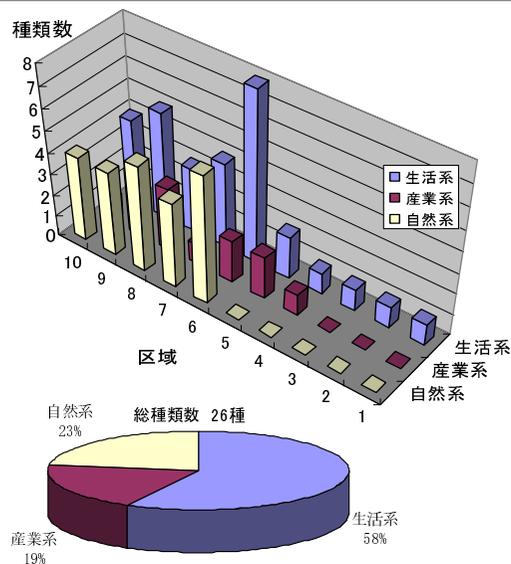


写真 定点潮間帯中間部 方形枠（50×50cm）

- 上部よりマガキ帯、カンザシゴカイ帯、ヒメテングサ・アアナオサ帯に分かれる。
- マガキ帯は、生貝が密集している。死んだ個体は少ない。
- カンザシゴカイ帯は、清浄な海域で見られるヤッコカンザシが一部混在している。
- 枠内にオオヘビガイが2個体見られ、分布上限となっている。

■ゴミ・漂着物

- 生活系では空き缶、プラスチック、ペットボトルが見られた。
- 産業系ではカキ殻のスパーサー、竹が見られた。
- 自然系ではカキ殻、流木、海藻等が見られた。
- 調査範囲におけるゴミの種類数の構成比は、生活系が半数近くを占め、次いで自然系が多かった。区域1～5では、区域6～10に比べて各ゴミともに種類数が少なかった。
- 区域1～5の種類は、生活系のゴミが多く、次いで産業系が見られた。自然系のゴミはほとんど見られなかった。
- 区域6では、生活系と自然系のゴミの種類数が最も多い箇所であった。
- 区域8～9では、自然系、生活系のゴミ種類数が多く、同様に産業系も多かった。



■景観・植生

- 景観・植生では、昨年度実施された3地点の定点撮影を行った。景観・植生ともに、昨年度との変化は見とれない。



■海岸・干潟生物調査マニュアルに基づく水質判定

指標生物名	得点	元宇品
ケカキ	20	×
アオガイ	19	×
ムラサキインコガイ	18	×
イロロ	17	×
イワヒゲ	16	×
クロフジツボ	15	×
カメノテ	14	○
イシゲ	13	×
マツバガイ	12	○
ウミトラノオ	11	○
ヒジキ	10	○
オオヘビガイ	9	○
イボニシ	8	○
ヒザラガイ	7	○
アナアオサ	6	○
マガキ	5	○
ムラサキイガイ	4	○
シロスジフジツボ	3	○
ツノマタ(褐色)	2	○
タテジマフジツボ	1	×
○の数		12
点数の合計		91
平均点		7.6
評価点(平均点×8)		61

引用：「広島県海岸・干潟生物調査マニュアル〔改訂版〕」、平成18年3月、広島県



■アンケート

- 個人の調査速度がバラバラで、一度にまとめてできたら良いと感じた。一般の人でもたくさん参加できたら良いと思う。(男性)
- マガキ等の数が多い生き物の数のかぞえ方が難しかった。(男性、女性)
- 海側がすごく多くの生物がいたので大変だった。分担人数とそれぞれの範囲を変えると良い化と思う。とても楽しかった。(男性)
- 岩場を初めて見て、様々なことを発見した。(男性)

まとめ

- きれいな水域に見られるカメノテ、マツバガイが少ないが確認された。
- 比較的汚れた海域に見られるマガキや同じく比較的汚れた海域に見られ宮島では見られなかったムラサキイガイが優占していた。
- ゴミ漂着物では、カキ殻の部材が多く見られる宮島と比較して生活系の割合がより多かった。海岸での人の活発な活動や河川の流入によるものと思われる。
- 水質判定では、評価点61点であり、評価Ⅱ(少し汚れた海)であった。
- アンケート結果では、個体数が多い種の調査方法の工夫が必要との意見があったので、個体数が多い種は被度で確認する方法に班長が判断して変更とする。